

事務事業名	観光等促進事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	市民経済・にぎわい創出部	にぎわいイベント課	にぎわいイベント係	後藤 俊郎

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	将来都市像実現に向けた目標		にぎわいを生み出すまち		
	施策分野		イベント・観光		
	めざす姿		エンターテインメントがあふれ、まちへの関心が高まっている		
根拠法令	名 称				
当該事業の法令等による義務付けの有無		無			
事務事業の期間	事業開始年度 平成03年度		事業終了（予定）年度		事業期間 設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費（単位：千円）			
市民、市外からの来訪者		6年度（決算額）	7年度（決算額）	8年度（予算額）
	事業費	4,501	2,654	5,168
	人件費	7,690	9,638	9,638
目 的	総事業費	12,191	12,292	14,806
本市の地域資源や魅力を効果的に活用・発信することで、市外からの来訪と人々の活発な交流の促進を図り、にぎわいの創出につなげます。	8年度事業費（予算額）財源内訳			
	国支出金	0		
手段、手法【実施手法：直営・委託】 ・イベントキャラクター「ヤマトン」を活用したPRを行います。 ・にぎわいを創出する新たなイベントの実施に向けた研究を行います。	県支出金	0		
	市債	0		
	その他	2,000		
	一般財源	3,168		
	合 計	5,168		

3. 活動内容

活動指標1	名称	SNSによる情報発信回数			単位	回
	内容説明	SNSを使用したイベント等の情報発信				
	指標値		6年度	7年度（当該年度）	8年度	
		予 定	120	130	200	
		実 績	156	235	―――	
活動指標2	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		6年度	7年度（当該年度）	8年度	
		予 定				
		実 績			―――	
活動指標3	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		6年度	7年度（当該年度）	8年度	
		予 定				
		実 績			―――	
活動指標4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		6年度	7年度（当該年度）	8年度	
		予 定				
		実 績			―――	

4. 今後の方針等

今後の方針等	5年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	6年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	7年度	Ⅱ：見直しのうえで継続
	市の情報発信に関しては引き続き、SNSを活用しながら市内外に向けて積極的に進めていきます。令和9（2027）年の国際園芸博覧会やその後のテーマパークの開業に向け、近隣市との情報共有、連携を図ります。					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	5年度	6年度	7年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	イベントキャラクター「ヤマトン」を活用したPR等により、本市の地域資源や魅力を効果的に活用・発信してにぎわいの創出につなげることは、市が実施すべき事業として妥当性が高いと考えます。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	5年度	6年度	7年度	B：成果を上げる余地が一部ある。
	B	B	B	市の財政状況を踏まえた上で、にぎわいを創出するための新たなイベント実施に向けた研究に努める必要があります。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	5年度	6年度	7年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	必要最低限の人員で効果的に事業を実施しています。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	5年度	6年度	7年度	A：受益・負担は適正である。
	B	A	A	にぎわいを創出するため、市内イベントやSNS等を通じて広く発信を行っているため、受益の公平性は適正であると考えます。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減、SDGsの達成に向けた取り組み5点について十分に行ったか。
	5年度	6年度	7年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	広報誌、ホームページ、イベントなど様々なチャネルを通じて情報提供を行っています。また、イベント当日には多くの市民ボランティアの参加を得ることができました。

事務事業名	イベント観光協会支援事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	市民経済・にぎわい創出部	にぎわいイベント課	にぎわいイベント係	後藤 俊郎

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	将来都市像実現に向けた目標		にぎわいを生み出すまち		
	施策分野		イベント・観光		
	めざす姿		エンターテインメントがあふれ、まちへの関心が高まっている		
根拠法令	名 称				
当該事業の法令等による義務付けの有無		無			
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間
	平成13年度				設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
大和市イベント観光協会		6年度（決算額）	7年度（決算額）	8年度（予算額）
	事業費	20,108	18,419	13,921
	人件費	6,152	5,622	5,622
目 的	総事業費	26,260	24,041	19,543
大和市イベント観光協会の運営を支援することで、本市の観光促進につながるプロモーション活動を推進し、市全体の魅力アップやイメージアップを目指します。	8年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
		県支出金		0
		市債		0
		その他		0
		一般財源		13,921
		合 計		13,921
手段、手法【実施手法：直営】				
・大和市イベント観光協会補助金を交付します。				
・大和市イベント観光協会の運営や事業についての支援、助言を行います。				

成 果（効果・予測） ・交流人口の増加につなげることができます。 ・市全体の魅力アップやイメージアップに貢献することができます。	活動指標1	名称	補助金交付回数		単位	回
		内容説明	一年間に補助金を交付した回数			
		指標値	6年度	7年度（当該年度）	8年度	
			予 定	1	1	
			実 績	1	――	
	活動指標2	名称	定期監査、理事会、総会		単位	回
		内容説明	定期監査、理事会、総会に出席した回数			
		指標値	6年度	7年度（当該年度）	8年度	
			予 定	3	3	
			実 績	3	――	
課 題 ・大和市への観光促進につながるプロモーション活動が効果的に展開できるよう、大和市イベント観光協会と綿密に 情報共有や連携を図っていく必要があります。	活動指標3	名称			単位	
		内容説明				
		指標値	6年度	7年度（当該年度）	8年度	
			予 定			
			実 績		――	
	活動指標4	名称			単位	
		内容説明				
		指標値	6年度	7年度（当該年度）	8年度	
			予 定			
			実 績		――	

4. 今後の方針等

今後の方針等	5年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	6年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	7年度	Ⅱ：見直しのうえで継続
	大和市イベント観光協会の安定的な運営を支援するとともに、市の魅力向上およびにぎわいの創出につながるイベントの実施や観光情報の発信について、同協会と連携を取りながら取り組みます。また、多様なコンテンツを活用した観光振興施策を推進し、市内外へと更なる魅力発信を図ります。					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	5年度	6年度	7年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	大和市イベント観光協会は、本市の観光振興及び地域活性化を推進する団体として、市と設立当初から密接に連携しながら事業を実施しています。観光情報の発信やイベント支援、フィルムコミッション事業などを通じて、市内外へ大和市の魅力発信を行っており、今後も継続して市が関与していく必要があります。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	5年度	6年度	7年度	B：成果を上げる余地が一部ある。
	B	B	B	フィルムコミッション事業やSNS等による情報発信に加え、国際園芸博覧会やその後のテーマパークの開業を見据えた新たなイベント施策を展開することで、更なる誘客促進および市の認知度向上が期待されます。また、各種イベントとの連携を強化し、市内回遊性の向上を図ることで、にぎわい創出につなげていく必要があります。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	5年度	6年度	7年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	事業費については、大和市イベント観光協会に対する補助金として、予算案および事業計画を精査したうえで決定しており、同協会を円滑に運営する経費として、適正な水準にあると考えます。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	5年度	6年度	7年度	A：受益・負担は適正である。
	A	A	A	大和市イベント観光協会は、市全体の魅力やイメージの向上を目的とした事業を実施しているため、受益の公平性は保たれていると考えます。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減、SDGsの達成に向けた取り組み5点について十分に行ったか。
	5年度	6年度	7年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	大和市イベント観光協会の事業について、同協会のホームページ、SNSに加えて、市の広報紙やSNSなど多様な媒体を活用し、積極的な情報発信を行いました。さらに、各種メディアを通じた情報発信にも努めたことにより、市内外の方に市の魅力をより多く発信できたと考えます。

事務事業名	観光イベント支援事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	市民経済・にぎわい創出部	にぎわいイベント課	にぎわいイベント係	後藤 俊郎

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	将来都市像実現に向けた目標		にぎわいを生み出すまち		
	施策分野		イベント・観光		
	めざす姿		エンターテインメントがあふれ、まちへの関心が高まっている		
根拠法令	名 称				
当該事業の法令等による義務付けの有無		無			
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間
	平成03年度				設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
各観光イベントを主催する実行委員会		6年度（決算額）	7年度（決算額）	8年度（予算額）
	事業費	2,090	2,790	2,790
	人件費	7,690	9,638	8,032
目 的	総事業費	9,780	12,428	10,822
観光イベントを主催する実行委員会の運営を支援すること で、円滑なイベント運営を図り、市全体の魅力アップ やイメージアップ、交流人口の増加につなげます。	8年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
手段、手法【実施手法：直営】		県支出金		0
		市債		0
		その他		0
		一般財源		2,790
		合 計		2,790
・市内で行われる観光イベントの主催者に対して、補助 金を交付します。				
・各観光イベントを主催する実行委員会への参画や開催				

3. 活動内容

で紹介するなど、事業の運営に対し支援を行います。	活動指標1	名称	実行委員会等出席回数			単位	回
		内容説明	市職員が実行委員会等準備会に出席した回数				
		指標値	6年度		7年度	(当該年度)	8年度
			予 定	38	38		45
			実 績	28	47		— — —
成 果 (効果・予測)							
・ 交流人口の増加につなげることができます。 ・ 市全体の魅力アップやイメージアップに貢献することができます。	活動指標2	名称	補助金交付件数			単位	件
		内容説明	補助金を交付した件数				
		指標値	6年度		7年度	(当該年度)	8年度
			予 定	4	4		3
			実 績	2	3		— — —
課 題	活動指標3	名称				単位	
		内容説明					
		指標値	6年度		7年度	(当該年度)	8年度
			予 定				
			実 績				— — —
・ まちの魅力のPRや観光資源の活用のために、より効果的な情報発信をしていく必要があります。	活動指標4	名称				単位	
		内容説明					
		指標値	6年度		7年度	(当該年度)	8年度
			予 定				
			実 績				— — —

4. 今後の方針等

今後の方針等	5年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	6年度	Ⅱ：見直しのうえで継続	7年度	Ⅱ：見直しのうえで継続
	今後も、市全体をにぎやかにする各種イベントを円滑に運営するための取り組みを推進するとともに、さまざまな媒体を活用して、これらのイベントが持つ魅力を市内外に発信していきます。					

5. 評価結果				
市の関与の妥当性	評価結果			市が関与する必要性があるか。
	5年度	6年度	7年度	A：市が関与する必要性が高い。
	A	A	A	本事業は、多くの集客ができる魅力的なイベントを開催するために各実行委員会を支援するものです。市が継続的に関与することで、より一層のまちのにぎわい創出、交流人口の拡大を図ることができます。
事務事業の成果	評価結果			さらに成果を上げるにはどうしたらよいか。
	5年度	6年度	7年度	B：成果を上げる余地が一部ある。
	B	B	B	実行委員会の主催に移行した浜祭に支援を開始しました。 また、その時代情勢に沿った内容等を模索していく必要があります。
事業費・人件費	評価結果			事業費、人件費は適正か。
	5年度	6年度	7年度	A：経費は適正な水準である。
	A	A	A	市全体をにぎやかにする観光イベントの開催に対する補助金であり、補助金額は事業計画を精査した上で適正額を決定しています。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	5年度	6年度	7年度	A：受益・負担は適正である。
	A	A	A	市全体をにぎやかにする観光イベントの開催に対する補助金であり、受益の公平性は適正であると考えます。
社会的配慮	評価結果			市民参加、情報提供、ユニバーサルデザインへの対応、環境負担軽減、SDGsの達成に向けた取り組み5点について十分に行ったか。
	5年度	6年度	7年度	A：社会的配慮を十分に行っている。
	A	A	A	広報やまなど市の広報媒体やSNSを活用し、広く市内外に情報発信を行いました。

事務事業名	大和市民まつり支援事業			
事務事業担当	部 名	課 名	担当名	責任者
	市民経済・にぎわい創出部	にぎわいイベント課	にぎわいイベント係	後藤 俊郎

1. 位置づけ・事務事業の期間

総合計画体系	将来都市像実現に向けた目標		にぎわいを生み出すまち		
	施策分野		イベント・観光		
	めざす姿		エンターテインメントがあふれ、まちへの関心が高まっている		
根拠法令	名 称				
当該事業の法令等による義務付けの有無		無			
事務事業の期間	事業開始年度		事業終了（予定）年度		事業期間
	昭和53年度				設定無し

2. 事務事業の概要

対 象	総事業費 (単位：千円)			
大和市民まつり実行委員会		6年度（決算額）	7年度（決算額）	8年度（予算額）
	事業費	14,480	14,480	12,000
	人件費	11,535	10,442	12,048
目 的	総事業費	26,015	24,922	24,048
大和市民まつり実行委員会の運営を支援することで、まつり全体の円滑な運営を図り、市全体の魅力アップやイメージアップ、交流人口の増加につなげます。	8年度事業費（予算額）財源内訳			
		国支出金		0
手段、手法【実施手法：直営】		県支出金		0
		市債		0
		その他		0
		一般財源		12,000
		合 計		12,000
・大和市民まつり実行委員会に対して、補助金を交付します。				
・同実行委員会の総括事務局として、まつり全体の運営				

3. 活動内容

活動指標1	名称	実行委員会・部会等開催回数			単位	回
	内容説明	役員会、実行委員会、6部会の開催回数				
	指標値		6年度	7年度（当該年度）	8年度	
		予 定	25	25	25	
		実 績	25	25	―――	
活動指標2	名称	イベント実施日数			単位	日
	内容説明	イベントの実施日数				
	指標値		6年度	7年度（当該年度）	8年度	
		予 定	2	2	2	
		実 績	2	2	―――	
活動指標3	名称	出店数			単位	店
	内容説明	市民まつりに参加した市民団体等の出店数				
	指標値		6年度	7年度（当該年度）	8年度	
		予 定	300	300	300	
		実 績	251	263	―――	
活動指標4	名称				単位	
	内容説明					
	指標値		6年度	7年度（当該年度）	8年度	
		予 定				
		実 績			―――	

4. 今後の方針等

今後の方針等	5年度	I：現状のまま継続	6年度	I：現状のまま継続	7年度	I：現状のまま継続
	・今後も市民まつりが円滑に開催され、多くの市民に愛されるイベントとなるよう、実行委員会の運営支援を継続していきます。 ・令和7年度は、令和広場に新しく飲食スペースを設けるなど新たな取り組みを行いました。今後も、開催内容の充実にも努めていきます。					